

## 土砂災害の要因と関心について

太田市立北中学校 三年 宮下 誉生

最近、九州地方などで、豪雨被害が多発しています。今回は、豪雨被害による土砂災害が、どんなに危険か調べました。

二〇二〇年七月七日、九州各地で記録的大雨を観測しました。それに伴って、土砂災害警戒情報が十一県で発表されました。(NHK NEWS WEBより引用)このような事例がたくさんあることから、雨量と土砂災害の発生率は比例関係にあるのではないのでしょうか。ここからは推測ですが、阪神淡路大震災の時も土砂災害は多発していました。しかし、これは地震による影響で、豪雨とは関係ないと思います。それを踏まえた上で、平成二十六年八月豪雨の時の、土砂災害発生数と比べると、後者の方が、多いのです。(国土交通省調べ)つまり、土砂災害が起こる一番の条件は、「雨」だと思います。もちろん、地盤の緩みなど、地理的要因が深く関わっていると思います。しかし、数値で出ているように、雨量が多いと、土砂災害も多発しているのです。

これが正しければ、強固な対策ができるのではないのでしょうか。アメダスなど、人工衛星と連動して、対策を出せるのではないのでしょうか。

その対策の例として、ダム建設などがあります。砂防ダムは、私の近所の山でも見られます。私は登山を趣味としていて、よく見かけますが、稀に、あまり機能していないのではないかと思う箇所があります。山の頂上付近や、民家の手前などです。個人的見解ですが、山の中腹部に、多数建設すれば、土砂災害を防げると思いません。

先ほど、私の趣味に登山を挙げましたが、富士山や、浅間山などではなく、もつと小さめの山を複数回登っています。そこで、地方、田舎の山を登って、気が付いた点があります。ちよつとした観光地になっている山と比べて、砂防ダムの建設数が少ないのです。ということは、地方、田舎の小さい山の方で、土砂災害が起こっているのではないのでしょうか。そうになると、大きい山に比べて、警戒心が薄れて、被害に巻き込まれる人が多くなるのではないのでしょうか。地元住民なら、ある程度の理解はあるでしょうが、外から来た一部の人は、まさか土砂災害が起こるとは思っていないでしょう。

さて、様々な憶測を挙げてきましたが、一番の理由、また共通の理由として、「油断」が挙げられると思います。豪雨でも大丈夫、ダムは建設しなくても平気、この地域では起こらないだろう、など。人は、もつと、もしもを想定して行動するべきだと思います。これまでの災害を、これからの災害に活かさないといけません。過去の事例から、学ぶ事はたくさんあります。そのために、私たちは土砂災害について、もつと関心をもつべきです。積極的に、土砂災害について知るべきなのです。行政機関から、注意を促したりすることも大切です。しかし、私たち一人ひとりが防災意識をもたないと、災害から身を守れません。土砂災害は、いつでも起こりうるのです。普段から備えておくべきものはたくさんあります。食事、設備、衛生など、一人ひとりの対策が一番大切です。みなさんも、日頃から、土砂災害について考えてみませんか。そこから、命を守ることに、必ずつながります。